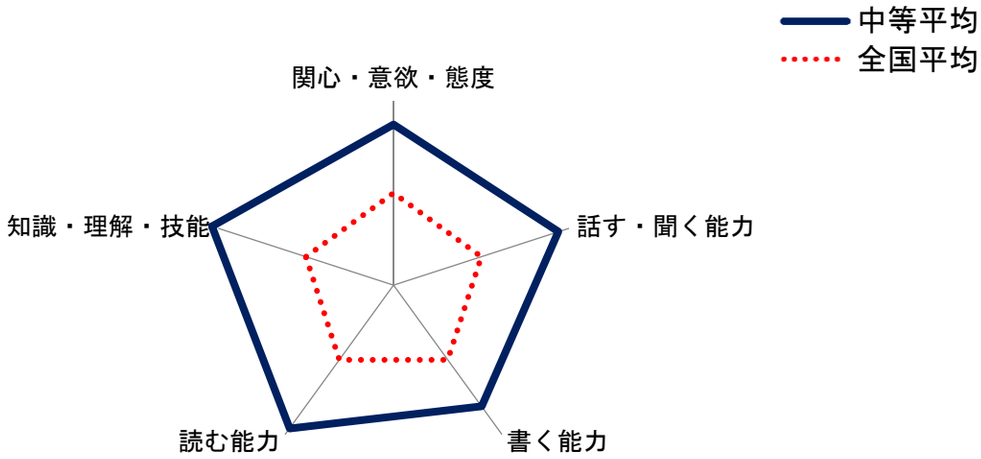
中学校

令和元年度　全国学力・学習状況調査
（各教科観点別の状況）結果

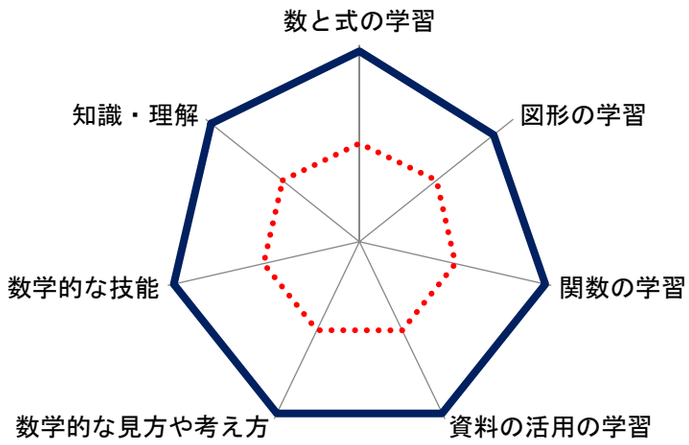
県立中等

○　教科に関する調査（全国の平均正答率との差）

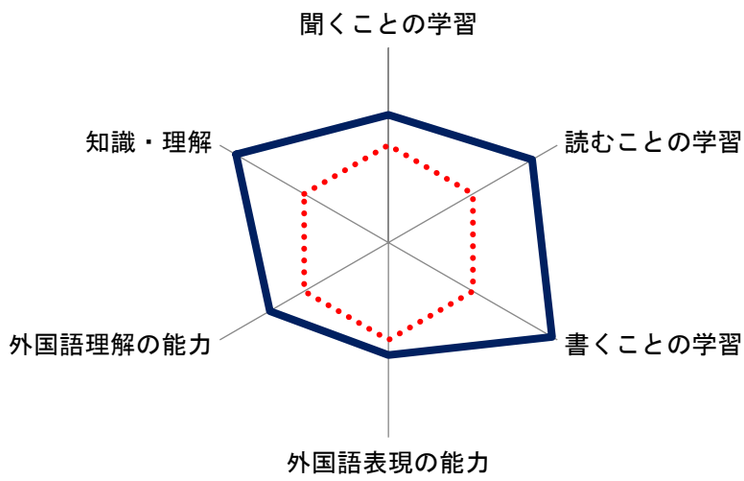
【国語】



【数学】



【英語】

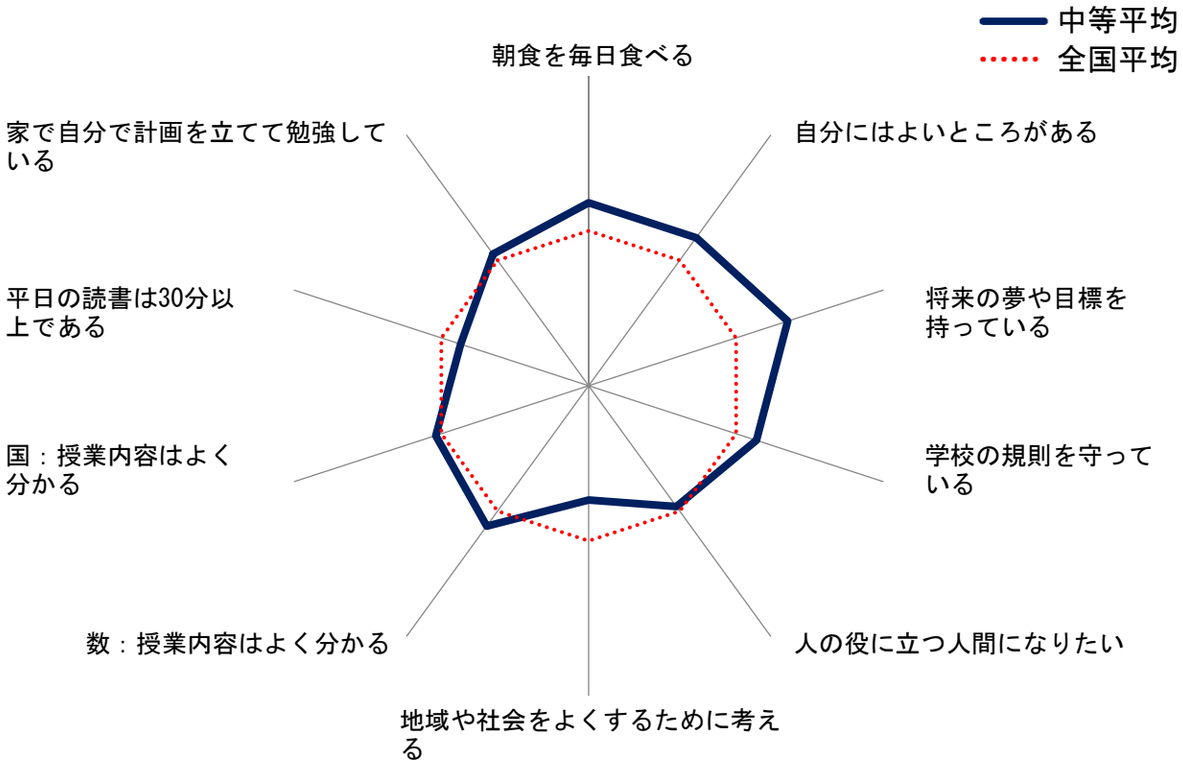


中学校

令和元年度　全国学力・学習状況調査
（学習や生活の状況）結果

県立中等

○　生徒質問紙調査（全国の平均回答率との差：肯定的な回答）



○　結果の分析と改善策

教科に関する調査では、国語、数学、英語ともに、平均正答率は、全ての項目で全国平均を上回っている。特に、国語では「知識・理解・技能」、数学では「関数の学習」などの項目が良好である。一方、英語では、「聞くことの学習」「外国語表現の能力」などの項目をはじめとして、全体的に正答率が低い。新しい大学入試では、資格・検定試験を併用し、英語の「聞く・読む・話す・書く」の４技能を評価することとしている。生徒の英語に関する資質・能力を育むためには、中等教育学校の６年間を通した学習形態を生かし、学校全体で授業改善に取り組むとともに、新しい学習指導要領や大学入試改革に対応することが求められる。

生徒質問紙調査では、「朝食を毎日食べる」「学校の規則を守っている」「将来の夢や目標を持っている」「自分には良いところがある」等の項目が良好であることから、家庭や学校で規則正しい生活を送ったり、落ち着いて学習に取り組んだりして、自己肯定感や主体的に学ぶ態度が育まれている様子がうかがえる。一方、「地域や社会をよくするために考える」「人の役に立つ人間になりたい」「平日の読書は30分以上である」の各項目は全国平均を下回っている。今後は、各校がそれぞれの実情に応じて地域課題解決に向けた活動に取り組むなどして、学校で学んだことを社会で生かし、よりよい社会の形成に貢献しようとする態度の育成が望まれる。